

リスタマネジメントの必要性が強く求められる昨今、調剤過誤防止支援システムは病院はもちろん、街の薬局でも導入されるケースが増えてきた。調剤業務上での三大ヒューマンエラーと言われる「薬品の取り間違い」「計数間違い」「秤量間違い」を二重、三重のチェックシステムでシャットアウトする監査システムの開発は、散薬監査を皮切りにスタート。その後、水剤監査やPTP等のピッキング監査(計数調剤)へと拡大していった。そこで、ユヤマの森和明氏(営業企画室・地域医療支援室)に、調剤過誤防止支援システム開発の歴史やその有用性についてお話をうかがった。



What's ざっと

調剤過誤防止支援システムって?

答える人

ユヤマ営業企画室・地域医療支援室課長 **森 和明氏**



森氏

な投与量が求められる医薬品について、承認量を0歳から月・年齢別にきめ細かく設定することを可能にしたものだ。特に老人や子どもの患者が多い施設で、有する機能が高く評価されている。

システムの性能について森氏は、「使いやすさが盛りだくさんです。例えば調剤記録、使用薬品一覧、登録薬品リスト等の帳票類における劇薬や毒薬などの注意事項は、赤字で印字し、メリハリを付けることにより注意を促します。また、1画面で最大12品目表示できるので、処方確認も簡便にできます。秤量の許容量も、±0~9%の範囲で求めに応じて設定できます。過去データから簡単に患者属性も呼び出せます」と説明する。

一方、ピッキング監査では携帯端末(PDA)が使用され、PC端末との通信は、アクセスポイントを通じてワイヤレスで行うため、あらゆる場所で業務ができるという特徴がある。

これら電子天秤(散薬監査)・PC端末・パソコン・プリンタと、レセコンからの処方データを連動させたものが、調剤過誤防止支援システムだ。システムの開発により、「あらゆる剤形の薬について、薬剤師さん、コンピュータ、患者さんの眼による二重、三重のチェックが行えるようになり、調剤ミスを限りなくゼロに近づけることができました」と、森氏はその意義を強調する。

嚥下能力の低い乳幼児や小児患者に用いら

れことが多い水剤は、慎重な投与が求められるため、監査業務も他剤に増して重要となる。同社の水剤監査システムには、超音波を利用した液量読取装置が使用されており、計測域は1.0~200mL程度まで対応できる。

電子天秤一体型監査システム 薬局の調剤室向け製品も

薬局で調剤過誤防止支援システムが利用されるケースが増えていくが、そこで浮上するのがスペースの問題だ。ユヤマでは、わが国で初めて電子天秤やパソコンを、一つのボディに収めたワンボディの散薬監査システムの開発に成功した。

森氏は、「電子天秤を改良して計量法をパスさせる高等技術は、当社ならではのものです。1964年の創業以来、自社開発に尽力してきた成果の賜物です」と胸を張る。

さらに「薬学生の皆さんが卒業して医療現場に行かれ、もし既存の薬科機器に不便な点を感じたら、ぜひ当社にご一報ください。150人の開発担当者の精鋭が、そのご要望にお応えします」と笑顔を浮かべる。

ショールーム見学も歓迎

ユヤマでは、ユヤマ大阪ショールーム(大阪府豊中市名神口3丁目3番1号)とユヤマ・東京ショールーム(東京都墨田区江東橋4丁目24-5号協新ビルディング)で、同社が誇る先進機器・システムを展示している。同社では「薬学生の皆さんもぜひショールームに立ち寄って、実際に体感してください。本社のある大阪では、ショールームだけでなく、研究所や工場もご覧いただけます」と薬学生の見学を歓迎している。

二重、三重のチェックが可能
使いやすい
最重要に開発

調剤過誤防止支援システムの開発は、15年前から進められていたが、ここ4~5年の間に病院や薬局への導入が盛んになった。薬局への導入は、医薬分業の進展に伴って増加し、特に院外処方せんを1日50枚以上応需する薬局が目立つ。薬剤別ではテオドール等の抗てんかん薬や、ジゴキシン等の強心薬が含まれた処方箋を、数多く応需している薬局ほど導入傾向が強い。

ユヤマが開発した散薬監査システムは、月・年齢別承認量チェック機能を有する優れたもの。操作はデスクトップPCまたはノートPC&液晶タッチパネルモニタのシンプルなもの、監査精度と使いやすさが工夫されている。

月・年齢別承認量チェック機能とは、抗てんかん薬や抗生物質など、小児患者への慎重



電子天秤一体型監査システム

創造する 企画する 開発する 調剤薬局



「ドラッグスター」
当社所有 実用新案登録 第3030269号

薬学生のみならず、はじめまして。私たちあさひ調剤は関東・福島・静岡の1都5県に83店舗を展開する調剤薬局です。創造する企画する開発する調剤薬局として、患者様の利益を考えた数々の独創的アイデアをカタチにしてきました。例えば、全国に普及し今ではすっかりポピュラーになった薬のカラー写真付き薬袋は、あさひ調剤が日本で最初に開発したものです。教育に関しても業界をリードしていると自負しています。5年にもわたる教育研修システムは極めて実践的でクオリティが高く、勤務シフトやスケジュールの都合で未受講にすることはありません。また、研修に限らず、業務をバックアップし、個々の向上心と探究心を満たす数々の支援制度を用意しています。ぜひ、みなさんと一緒に医療に貢献できることを楽しみにしています。

あさひ調剤

